

若者の地方体験交流インターン事業体験報告レポート

今年も、8月4日～18日まで、池田佳織さんと平川綾子さんの二人の方が美波町を訪れ、いろんな体験や活動をされました。

この事業は、都会に居住する若者が地方に赴き、生活やイベントに直接参加することで、その土地の抱えている問題や課題に対し感想や提言をすることを目的としています。

2週間という短い滞在でありましたが、二人が感じたことや、町へいただいた提言などをご紹介します。



池田佳織さん(左)と平川綾子さん(右)の二人▶

…………… 立教大学 観光学部 観光学科 3年 池 田 佳 織 ……………

【地域への提案】

近年、地域活性化という言葉をよく耳にするようになりました。では、「地域活性化」とはなんなのでしょうか？私は昨年、ゼミでの研究中にこの疑問を持ちました。そして、地域活性化とは、「地域住民がひとつになって、目標にむかって持続的な活動を進めること」だと考えました。地域住民が話し合いを重ね、より良い地域を作るために持続的な活動をすることで、地域に活気がでるのではと考えています。大切なことは、観光客を何万人も呼ぶことでも、住民を増やすことでもありません。今住んでいる人が団結して、地域のために協力し合うことだと思います。

美波町は高規格道路を通って隣の地区に行くほど、集落が点在しています。それぞれに特色があり、美波町全体でひとつの目標をもって地域づくりを進めていくのは難しいのではないかと感じました。そこで、私はそれぞれの地域がお互いの目標を理解し合い、時には協力し合いながら活動していくことを提案します。例として、2地域の地域づくりを考えました。

●日和佐浦(周辺)地区

漁村特有のあわえやウミガメを活かした「まちあるき観光」をすすめ、現在訪れている観光客により長時間滞在してもらえるような地域づくりができるのではないかと思います。

●木岐地区

修学旅行の受け入れなど活動が活発な木岐地区は、小中学生やその家族をメインターゲットとしています。しかし、少子高齢化が進んでいる現状から、将来性が低いのではないかと思います。そこで、40代～60代女性をターゲットとした体験プログラムを充実させることを提案します。

また、どの集落でも歩いていると空き家がたくさんありました。家は人が住んでいないと傷んでしまうものです。こうした空き家の持ち主に戻ってきてもらうような政策や住みたい人への仲介などの仕組みづくりが必要ではないかと思います。

【最後に】

今回のインターンシップでは役場の方々をはじめ、ホームステイ先の方々や研修先の方々に大変お世話になりました。はじめは不安だらけでしたが、おかげさまで楽しく充実した時間を過ごし、たくさんの良い思い出を作ることができました。美波町と徳島県が大好きになった2週間になりました。

本当にありがとうございました！

…………… 関西学院大学 総合政策学部 総合政策学科 3年 平 川 綾 子 ……………

【活動を終えて】

8月4日から18日までの約2週間を振り返ると、「あれは現実ではなかったのではないかな。」と今では感じるくらいです。それほど、今まで私が過ごしてきた生活とは真逆の2週間でした。

私は主に、旧由岐町志和岐地区・潮騒の館でこのインターンシップを体験しました。まず車がないとどこにもいけないことにビックリし、正直「こんなので暮らしていけるのか…」という思いが強くありましたが、地域の人々が助けてくれたおかげで、初めての一人暮らしは心細くはあったものの、無事に終える